

見守りネットワーク事業 「住民支え合い マップづくり」

中学校体育館において
村内一斉に開催
219名の参加!!

本事業は、榛東村地域福祉活動計画に記載されている「地域における避難行動要支援者情報の把握と共有」に基づき、災害時等において支援を必要とする方・世帯（避難行動要支援者）を地域全体で見守るネットワーク構築のため地域支援関係者が一堂に会し地域の詳細情報を住宅地図に示し、避難行動要支援者を中心とした総合的な支援体制のマップづくりを実施し、地域住民による顔の見える関係づくり（地域力の向上）避難行動要支援者等の福祉ニーズ把握を目的としています。

- また、今年度初めて避難行動要支援者を
- ・「A」寝たきりなどで専門的支援が必要な人
- ・「B」車いすや一部介助で避難できる人
- ・「C」日頃の見守りが必要な人



あの時・・・

10月12日に発生した台風19号は各地で川の氾濫が相次ぎ、大きな爪痕を残しました。本村でも自主避難所（しんとう温泉）が設置され30名程の方が避難されました。村内には第4区の区長と民生委員が一人暮らしの方へ連絡をとりコミュニティセンターに自主避難し、心細い一人暮らし高齢者の方は「不安だった。安心した」「ありがたかった」と話されていたようです。



と3段階に細分化し、更に児童及び生徒の安心安全を視野に学校関係者にも周知し、危険箇所や大雪時の通学路確保についても協議していただきました。

マップづくりは、防災だけが目的ではなく地域の関係づくりのツールとして活用していただくものです。最後に各区の事業目標を話し合い発表していただきました。目標には、区民を対象とした防災訓練（消火、AED講習、炊き出し）の実施や親睦会員の把握及び避難場所の安全確認。班長を中心としてのマップづくりについて周知を行い、日頃から声掛けを行うなどの意見があげられました。

